

2025年度 西浜中学校 学校経営の目標と方針

2025. 4. 3

1 茅ヶ崎市公立学校教育目標

- ・ 心もからだもすこやかな人になる。
- ・ ゆたかで高い知性と品性をもった人になる。
- ・ はたらく喜びを持ち、すすんで社会の発展に役立つ人になる。
- ・ 心正しく明るい社会をきずく人になる。
- ・ 郷土を愛しその発展につとめる人になる。

2 茅ヶ崎市教育基本計画

「豊かな人間性と自律性をはぐくむ学校教育」

3 学校経営方針

学校教育目標の実現に向けて、学びあい、高めあい、支えあい、チームで質の高い教育活動を推進する学校を目指し、保護者・地域から信頼される学校づくりに努める。



(1) カリキュラム・マネジメントによる教育活動の充実

- ・ 西中カリキュラムにそった教育活動の充実
- ・ 思考力、判断力、表現力を育む授業づくり
- ・ 主体的に学習に取り組む態度の育成
- ・ 指導と評価の一体化。信頼と妥当性のある評価・評定
- ・ キャリア教育の充実
- ・ 「探究学習」へつなぐ「学びあい」活動の充実

(2) 生徒指導・特別支援教育の充実

- ・ 思いやりを育む指導の充実
- ・ 基本的生活習慣の確立
- ・ いじめ防止と早期対応
- ・ 課題を抱える生徒の支援と対応

(3) 地域との連携による教育力の向上

- ・ 教育活動についての理解と協力体制の促進
- ・ コミュニティ・スクールを通じた小中連携、一貫教育の実施
- ・ 「つなげる 高める 育てる」 家庭・地域・学校が一体となつて子どもを育てる教育体制の構築
- ・ 教育活動評価の実施

4 西浜中学校教育目標

『自ら学び たくましく 心豊かに 輝く西中生』

5 学校教育目標達成のための重点目標

- 1 “考える力”のある生徒の育成
- 2 “学ぶ意欲”のある生徒の育成
- 3 “他者とかかわる力”のある生徒の育成

自ら学び、考え、自分の人生を切り拓いていく力を養う
社会において協働し心豊かに生活することができる人間性を養う

6 重点目標を達成するための手立て

①主体的・対話的で深い学びのある授業実践

「学びあい」を通じて、主体的・対話的で深い学びを実現し、「考える力」「学ぶ意欲」「他者とかかわる力」を育む。探究的な学習ができるよう学びの質を高める。

- ・「学びのステップ」を活用した「聴く・話す」指導と「学びあい」活動の充実
主体的・対話的で深い学びのある授業実践。学習の基盤となる資質・能力の育成。
- ・教科におけるカリキュラム・マネジメント
指導と評価の一体化（PDCAサイクルの確立）が図られた年間評価計画、指導計画の実施と改善
質の高い学習課題の設定
「学び直し」「くり返し」の計画
- ・「学びのプラン」を活用し「主体的に学習に向かう態度」の育成
生徒向け単元学習計画。単元のゴール（評価）と学習過程の見える化により学習の目安を与え、学習の見通しを持たせ振り返りを行い、「学びに向かう力」を育成する

②充実した学級づくり

コミュニケーションスキル指導を入り口に係活動や行事への取り組みを通じて信頼関係作りや思いやりなどの道徳観を実体験から育み「他者とかかわる力」を育てる

- ・「思いやり（他者の尊重）」を育む学級、学年集団作り
- ・コミュニケーションスキル指導の実施
他者とうかがかわるか、入り口にあたる指導。学級での活動において意識的に指導する。他を尊重する姿勢、態度を養う。

- 係、委員会活動の充実

キャリア教育の視点で活動を捉え、仕事に対して自ら責任を持って誠実に取り組み、互いに外に協力したらいい支えあったりすることで信頼関係を築き、思いやりのある集団を育成する。

- 行事への取組の充実

係活動等を基盤に、行事への取組において苦手をフォローする「思いやり」から真の協力を実体験させる。

集団生活において互いの勝手気ままを我慢するのではなく、他を尊重し周囲に気を配り、気持ちよく生活ができる集団づくりへと学級をステップアップさせる。

③ キャリア教育の充実（教育活動をキャリア教育の視点でつなぐ）

• 「なぜ学ぶのか」「何のためにそれをするのか」学習をはじめとする学校での諸活動の意味を社会人としての視点から考え学び、学習や学級活動等への取組に還元し（キャリア教育の視点でつなぎ）、活動を充実させる。

• 「働くこと」の現実や必要な資質・能力は何かを学び、人生を拓き社会でよりよく生きるために自分は何をしなければならないのか。どんな力をつけることが必要かを考えさせ（「自分探究」）、進路への取組を充実させる

- ガイダンス（1年生）

なぜ学校でそれをするのか。学校の諸活動（学習・学級活動等）が社会とどうつながっているのか（教育活動をキャリア教育の視点でつなげる）。社会で必要なスキルは何かなどを考えさせ、学校の諸活動への意味付け、動機づけを行い、教育活動を充実させる。

- 職場体験事前学習（1～2年生）

仕事調べ、働く人に話を聞く会など、「働くこと」の現実や必要な資質・能力は何かを学ぶ。進路学習と合わせて自分の将来について考える。

- 職場体験学習（2年生）

職場（業）体験学習を通じて「働くこと」を実感し、将来への見通しを持って進路への取組を考える。

※お客様扱いの職場体験ではなく、責任感やスキルの必要性などを肌で感じられるような体験を仕組み、学校での学習が生かせるような体験としたい。

- 職場体験事後学習（2～3年生）「自分探究」

職場体験を振り返り（学んだことを発表等）、自分の将来について具体的に考える。調べた職業と上級学校から自分の進路計画を立てる。

自己と向き合い、卒業後の進路について考えを深め、進路選択と進路の実現に向けて具体的な取組や努力点について考える。

7 重点目標達成のための運営組織作り

西中カリキュラム推進委員会

○カリキュラム管理・推進チーム

- ・西中カリキュラムの管理とカリキュラムを柱とした教育活動の推進
- ・学校のグランドデザイン、重点目標（「思いやり」を育む指導）にそった教育活動の実施
- ・1年「学びあい」、2年「高めあい」、3年「支えあい」のできる学年・学級経営の確立
- ・教育活動評価（PDCAの確立）
- ・特別活動等のカリキュラムのアップデート
- ・キャリア教育の視点を取り入れた教育活動の充実

○教科カリキュラム推進チーム

- ・教科カリキュラムのアップデート
- ・指導と評価の一体化推進
- ・カリキュラム・マネジメントの推進
- ・学び方指導の充実
- ・信頼と妥当性のある学習評価の実現

○総合的な学習の時間のカリキュラム推進チーム

- ・3年間の学びの積み重ねによる探究学習の実施及びカリキュラム改善
- ・地域、外部人材の活用（地域担当）

8 本年度の研究主題（学校づくりの核）

西中カリキュラムによる教育活動の充実

～考える力・学ぶ意欲・他者とのかかわる力の育成～

- ・「探究学習」へつなぐ「学びあい」活動の充実
- ・思いやりの心を育む、学級・学年経営
- ・キャリア教育の視点を取り入れた教育活動の充実

9 研究推進における重点課題

1) 教科会の活性化とグループ研究による授業力の向上

- ・考えを深めあう学びあいの質が高まる学習課題の設定
- ・単元指導案、学びのプラン作成。学びのノートの活用。
- ・3年間の年間指導・評価計画の改善
- ・学び直しとくり返しの計画（カリキュラム・マネジメント）
- ・指導と評価の一体化、PDCAサイクルの確立。
- ・評価の妥当性の検討

2) 講師の指導による授業研究の充実

授業づくりについて、校内研究会を線でつなぐ積み重ねのある授業研究会の推進

10 現職教育計画

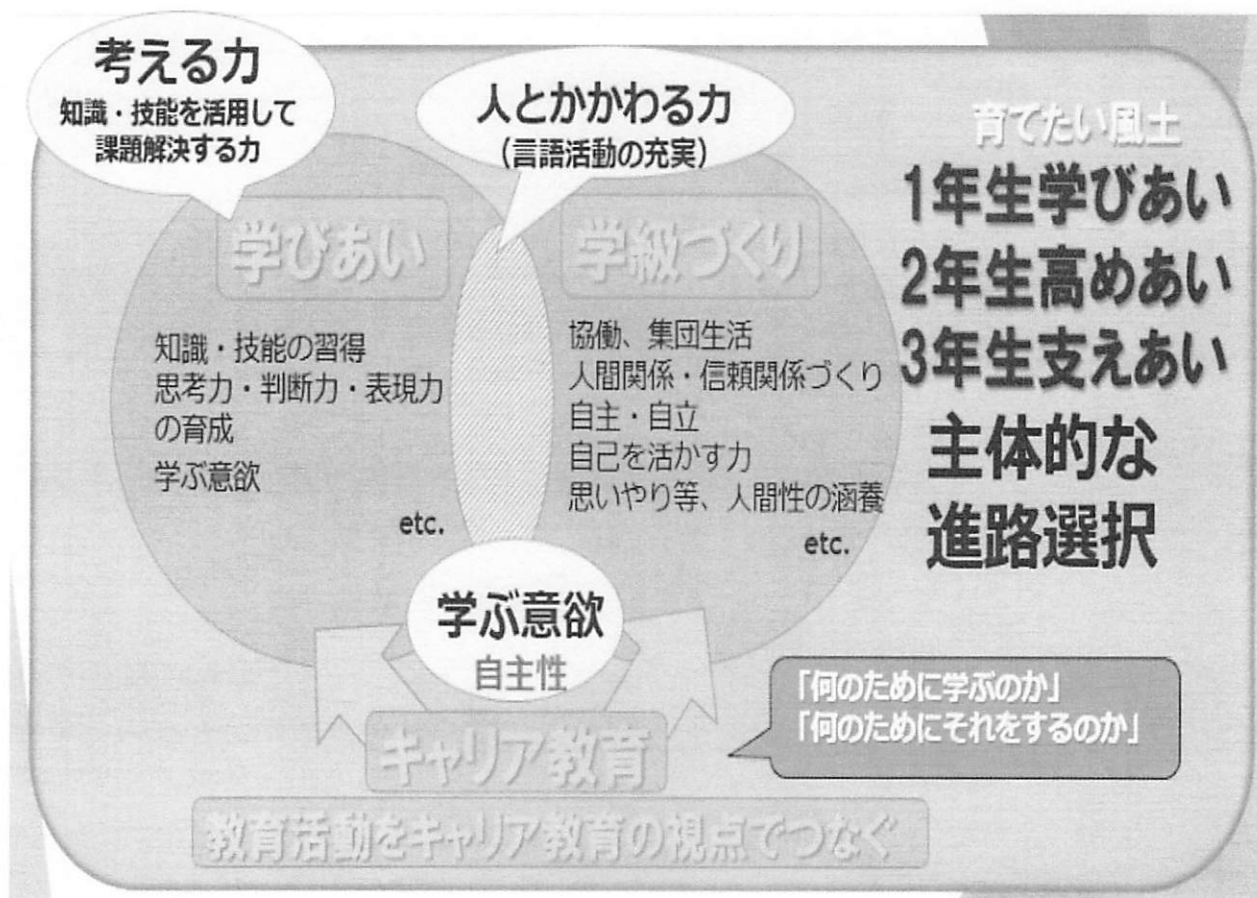
- 1) カリキュラム・マネジメントにより、一連の教育活動を組織的に行い、指導力、組織力を高める。
- 2) 総括教諭、主任等のグループリーダーによる学校運営の活性化
- 3) 報告・連絡・相談・確認の徹底
- 4) 職員会議、不祥事防止会議を通し、危機管理意識を高める。
- 5) 時間対効果を意識した働き方の推進。

- ・ 学びあい、高めあい、支えあえる職員集団の育成
- ・ 危機管理意識の高い職員集団の育成

生徒にとってより良い教育環境は
教職員そのもの

「学びの場作り」

西中カリキュラムによる学校教育目標の実現



「学校教育目標」と「令和7年度重点目標」に向けて

学校教育目標 「自ら学び たくましく 心豊かに 輝く西中生」

2025年度重点目標 ①考える力②学ぶ意欲③他者とかかわる力 のある生徒の育成

豊かな人間性（思いやり）

他者とかかわる力

「他者への配慮・思いやりの心を育てる」

- ・認め合い、友だちの考えや思いを大切にできる。
- ・みんなが気持ちよく生活するために大切なことは何か考え、行動できる。

健康・体力

「規則正しい生活習慣を身につける」

- ・ゲーム、SNS等に振り回されず、規則正しく生活できる。
- ・体力の向上。
- ・セルフコントロールができる。

資質・能力の育成（確かな学力）

考える力・学ぶ意欲

何ができるようになるか

○学校教育の基本

- ・いろいろな考えを受け止め、自分の考えを深めることができる。
- ・自分の考えをきちんと伝えることができる。
- ・自ら進んで学習に参加し、課題解決することができる。

何が身に付いたか

○学習評価を通じた学習指導の改善

- ・人の意見を聞き、考えを深め、課題を解決することができている。
- ・粘り強く工夫して、主体的に学習に取り組むことができている。

生徒の実態

- ・素直である。
- ・学習にまじめに取り組んでいる。
- ・友だちとかかわることが好きである。
- ・体を動かすことが好きである。
- ・学校行事に積極的に取り組む生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

個に応じたチームによる支援
ふれあい補助員・SC・外部機関との連携

目指す生徒の姿

- ・自ら学び、考え、自分の人生を切り拓いていく力のある生徒
- ・仲間と協働し、心豊かに生活することができる生徒

何を学ぶか

○教育課程の編成

- ・学び方、聴き方、話し方スキル
- ・学びあいや特別活動を通して他を尊重する姿勢、態度
- ・各教科等の学びとそれらの将来とのつながり

どのように学ぶか

○教育課程の実施

- ・学びのプランによる見通しのある学習
- ・思いやりのある聴き方、話し方を基盤とした学習
- ・キャリア教育の視点を取り入れた学び

実施するために何が必要か

○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- ・校内研修の充実 ・「学びあい」「高めあい」「支えあい」ができる3年間を見通した学級、学年経営。 ・教育相談コーディネーターを中心としたチームでのサポート ・キャリア教育の充実とキャリア教育の視点を取り入れた教育活動 ・家庭と連携、協力した生徒指導、チーム支援の充実 ・コミスクを通じて「小中一貫教育」の実現と「家庭・地域・学校が一体となって子どもを育てる教育体制」の構築

安心・安全を守る

- ・危機管理意識の醸成 ・安全教育 ・防災教育の充実
- ・いじめ防止プロジェクトの実施
- ・教育相談の充実 ・情報モラル教育の充実

開かれた学校作り

- ・先輩に話を聞く会など、地域人材の活用 ・学校、学年、学級だより等による情報発信 ・本音で話し合える学級懇談会等の運営
- ・地域連携カリキュラムへのアップデート

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かして多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること

次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性を涵養すること。



学習指導要領 第1章 総則より

学校教育目標（目指す生徒像）

自ら学び

学ぶ意欲

たくましく

考える力を発揮し
課題解決する力

心豊かに

思いやりをもって
他者とかわる力

輝く西中生

重点目標（学校教育目標達成に向けて育てたい力）

- ① “考える力”のある生徒の育成
- ② “学ぶ意欲”のある生徒の育成
- ③ “他者とかわる力”のある生徒の育成

仲間とよりよくかわり
将来に向けて生き活きと学び
人生を切り拓いていこうとする
生徒

具体の取り組み

① 主体的・対話的で深い学びのある授業実践

「学びあい」を通じて、主体的・対話的で深い学びを実現し、「考える力」「学ぶ意欲」「他者とかわる力」を育む。探究的な学習ができるよう学びの質を高める。



② 充実した学級づくり

コミュニケーションスキル指導を入り口に係活動や行事への取り組みを通じて信頼関係作りや思いやりなどの道徳観を実体験から育み「他者とかわる力」を育てる。「何のためにそれをするのか」学校での諸活動の意味を社会人としての視点から考え学び、学級活動等への取組に還元し（キャリア教育の視点でつなぎ）、活動を充実させる。

③ キャリア教育の充実（教育活動をキャリア教育の視点でつなぐ）

- ・ 「なぜ学ぶのか」「何のためにそれをするのか」学習をはじめとする学校での諸活動の意味を社会人としての視点から考え学び、学習や学級活動等への取組に還元し（キャリア教育の視点でつなぎ）、活動を充実させる。
- ・ 「働くこと」の現実や必要な資質・能力は何かを学び、人生を拓き社会でよりよく生きるために自分は何をしなければならないのか。どんな力をつけることが必要かを考えさせ、進路への取組を充実させる